

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 中島貞夫

山名	七面山—八紘嶺	山行名	例会
ルート	身延町羽衣—表参道—敬慎院—七面山—希望峰—八紘嶺—梅が島温泉		
山行日	平成 25 年 9 月 28 日～29 日 (日)	天候	晴れ
参加者	リーダー：中島貞夫 サブリーダー：佐坂茂美 男性：中田繁男 女性：染矢つや子、徳田幸子、岡本綾子、河野典子、大谷典子 合計：8名		

コースタイム

28 日 京田辺市 5 : 00—身延町羽衣 (表参道登山口) 10 : 20—敬慎院 15 : 00 泊
29 日 敬慎院 6 : 50—七面山 7 : 45—希望峰 (三角点) 8 : 10—八紘嶺 12 : 00—梅が島 14 : 30

コース概略 (スマホとカシミールで作成)



山行報告

日蓮宗の聖地身延山の裏鬼門を守る七面山を登り、富士山の麗姿を拝んで八紘嶺まで縦走し途中で南アルプスのパノラマを眺め、梅が島温泉へ下るルートを堪能してきた。

28 日、参加者が 8 名と少なかったが、マイクロバスをチャーターして 28 日早朝 5 時に京田辺市を出発した。順調に走り、身延町羽衣の表参道登山口を 10 時すぎスタート、登りが続くコースではあるが灯籠の形をした丁石に道しるべが表示されており、目標を持って歩いて気持ち的に楽であった。路もゆるい傾斜で石段もなくゆっくりと歩けた。日蓮宗の聖地とあって信徒の方が多く、下ってきた 300 人の団体、登りでは 200 人とそれぞれ声明を唱えながらの行列や、団扇太鼓を叩きながら登ってくる人など、大変にぎやかで疲れも忘れて歩くことができた。

途中の休憩所にはイスはもちろん、お茶の奉仕もあり大変ありがたかった。感謝、感謝。46 丁目が立派な和光門で、少し登ると東側に富士山が杉の間から見えてきて、鐘楼で鐘をついて無事登ってきた感謝と願いをこめる。遥拝広場で中腹に雲が懸った大きな富士山を見て感激。



古い山門から本堂を見て丸太を輪切りにし並べた階段を降りる。50丁目の敬慎院入り口では僧侶数人の出迎えを受け、すぐ部屋へ、そして風呂で汗を流してさっぱりと気持ちよくなったところで、部屋へお膳が運ばれてきて、お神酒付きで精進料理をよばれた。

食後、本堂で御本尊の御開帳、お勤めがあり宿泊者全員が参加して唱和した。ひさしぶりの正座に足もしびれたが心新たな気持ちになり、いつもの山小屋とは違う雰囲気にも包まれる。

部屋では名物？の巻きフトンを2列に敷いて潜り込んで寝た。

29日、5時の太鼓で起床、5時半からの本堂でのお勤めを途中で抜けて、遥拝台へ移動して日の出を待つ。富士山は裾を雲に覆われて浮かんでいるようで、すでに多くの信者が手を合わせて経を唱えながら待っている。6時前、お彼岸の中日を過ぎているので富士山の頂上から少し南面から太陽の光があつという、ほんの瞬間に光輝いて飛び出した感じで空を明るくした。

精進料理の朝食を食べ、僧侶に見送られて今日の縦走に七面山へスタートする。ゆるい登りを約20分で頂上着、周りは樹木で見通せない。尾根を下って希望峰に着く。ここからは南アルプスのパノラマが見え、北には八ヶ岳まではっきりとみられた。樹林帯の中を何度も登り下りをしてようやく八紘嶺に到着する。

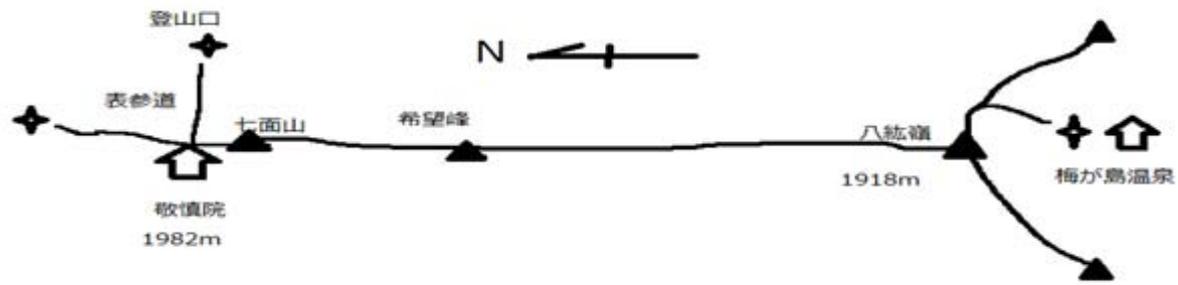
縦走中は誰にも会わなかったが、ここで先行していたグループに追いついた。梅が島から登ってきた登山者もあって急に賑やかな中で情報を交換した。

展望は南方面が見えるだけで良くない。予定より遅くなったので早々に出発する。地図では尾根になっているが急な傾斜のところをトラバース、ガレが続き、谷を見下ろしても急勾配なので梅が島までは厳しいとみて慎重に下る。途中今回見納めの富士山をながめて下山。予定より遅くなったが無事梅が島温泉に着き、温泉で汗を流して帰路に付いた。



今回の山行では富士山に冠雪がなかったので、季節を変えて来ても良いコースと思う。

ヒヤリハット なし



感想文

富士山を望む七面山登山に参加して

中田繁男



先週の台風が去ってから晴れが続いていて、山行の2日間は雨は全く心配のない快晴で登山日和になりました。(笑) 中型バスに参加人数は8名と少ないがゆったりとして出発できた。

山梨県までの長旅ですが途中休憩を挟んで新東名高速に入っていきなり右前方に富士山が迎えてくれました。富士山には山頂に白い雪が見えないと「富士山じゃない！」なんて我儘を言って高速道から静岡県の新清水を經由して身延山地に入

った。

恥ずかしながら今回の山行の企画を見るまで「七面山」の事は何も知らなかったのです。日蓮宗法華経の聖地で山岳信仰の修業する根本道場があります。今回のコースは中島さんが以前に登ったコースを行いました。羽衣から表参道を登り始めました。途中のは全国からの信者の皆さんに声かけいただき恐縮しながら山頂から麓から「南無妙法蓮華経」の大合唱が参道に響きわたります。信者さんからの奉納による腰かけ台が参道に数多く、トイレも完備して整備された道のりでした。

愛宕山の参道のように階段部分が多く登りばかりで疲れが溜まるので休憩が欠かせません。山頂付近の本堂まで信者の方々は5時間位だそうで我々は昼過ぎに出発して4時ころに今日の宿坊がある敬慎院に到着した。本堂は東向きに建てられており、隨身門前庭の真東の正面に富士山が雲海の上にクッキリ鎮座していました。
(感激)



信者以外の山岳会の方々と一緒に宿坊では、僧侶に皆さんの出迎えがあり、掃除が行き届いた綺麗な部屋に案内された。400人以上も泊ることが出来る畳敷きの部屋にストーブが焚いてあり温かい。宿泊の注意事項の説明があつて風呂に入った後夕食が運ばれてきた。



予想通り精進料理でご飯・味噌汁はお代わり自由です。冗談でまさかお酒はないでしょうねと言っていたら、お膳にはお銚子に杯が添えられていてお寺も粋な計らいをするもんだ。(感激)美味しくいただいた後に今日のお勤めが待っています。

最初は御開帳で御本尊にお参りしてその後本堂でお勤め。宗派を問わないとのこととちょっと重い「うちわ太鼓」を叩いて「南無妙法蓮華經」を唱和した。皆さんも初体験に緊張

ぎみで無事終了した。

中島さんから事前に聞いてた布団は予想通り「のり巻きふとん」一枚の大きな繋がった布団をくるくる広げて敷きます。たしかに布団の上げ下ろしが早く効率的でした。翌朝も本堂でお勤めがありますが、途中で抜けて隨身門の前で富士山の御来光を待ちます。5時55分頃に富士の山北東部陰から太陽が見れ始め、信者の皆さんは一斉に「南無妙法蓮華經」大合唱！！



(厳粛な雰囲気)朝ご飯(精進料理)をいただき僧侶の皆さんの見送りの中元気に出発した。40分位で山頂(1982m)に到着。周りは林の中を南方の「八紘嶺(1918m)」を目指して尾根伝いに縦走しました。山道を歩いている左手には常に「富士山」が見えていて見守られている感じです。適度な登り下りがあり山々が見渡せて気持ちのいいコースに満足していました。終点に近づくにつれて急坂・クサリ場が増えて厳しく

なってきた、楽な山行はなかなかさせてもらえませんが、富士山を十分堪能できる山行企画に感謝しています。又、次回の山行き計画の候補に入れてください。(終)

